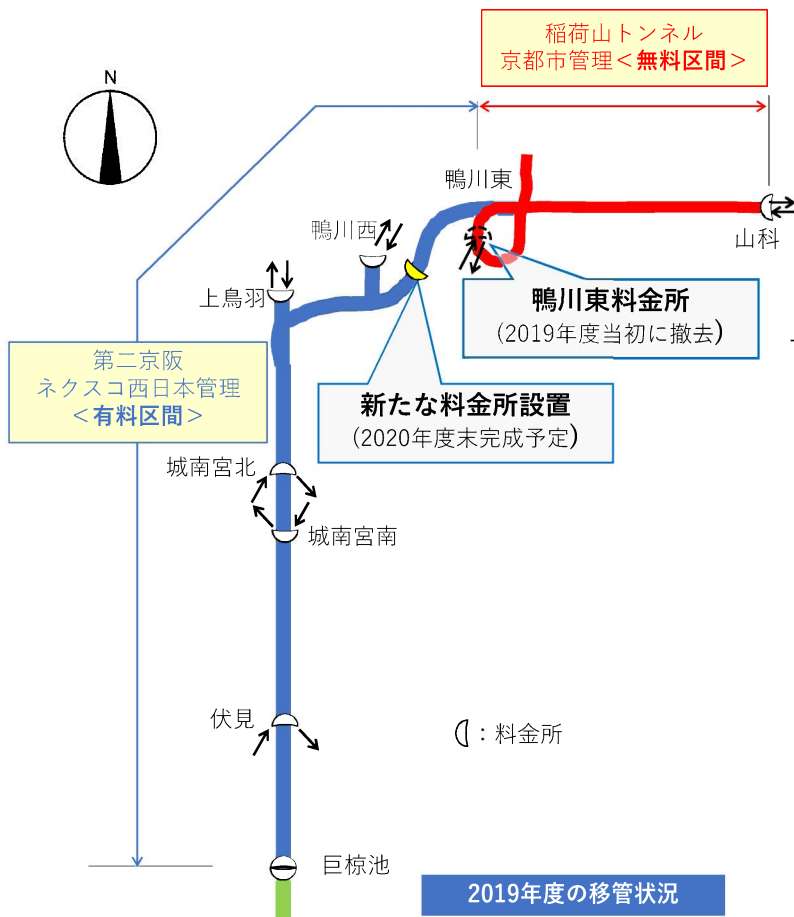


- 1 稲荷山トンネルの移管及び無料化の概要について
- 2 移管後の交通量及び大気質の動向について（速報）
 - ・ 鴨川東測定施設に係る半年の平均値
 - ・ 山科測定施設に係る半年の平均値
- 3 トンネル坑口周辺の騒音・振動調査について
 - ・ 鴨川東 I C 周辺部の測定値
 - ・ 山科 I C 周辺の測定値
- 4 稲荷山トンネル（新十条通）移管後の状況等のまとめ

1 稲荷山トンネルの移管及び無料化の概要について



京都高速道路の移管について

- 平成31年(2019年)4月に京都高速道路 新十条通(稲荷山トンネル)は、阪神高速道路(株)から京都市に移管され、無料化
- トンネルの無料化に伴い、現在、新たな料金所を整備中であり、完成するまでの間、山科料金所はNEXCO西日本が引き続き活用
- トンネルの交通量は、4月から9月の半年平均で約1万9千台/日(約2倍)へ増加

2 稲荷山トンネルの交通量及び大気質の動向（鴨川東測定施設）

鴨川東測定施設	NO ₂ 単位：ppm	SPM 単位：mg/m ³	トンネル交通量 単位：台/日
H31年4月～R1年9月 日平均値	0.009	0.016	約1万9千台
H30年4月～9月 日平均値	0.009	0.019	約8千台
H30年 日平均値	0.012	0.017	
参考：予測解析値 (R1年日平均値)	0.012	0.016	約2万台

環境基準値
(98%値・2%除外値)

NO₂ 0.04～0.06ppm
ゾーン内又はそれ以下

SPM 0.1mg/m³以下

- ➡ トンネル交通量は増加（約2倍）しているものの、NO₂及びSPMは昨年度と同程度
- ➡ 交通量の増加による影響は小さいと考えられる。

3

2 稲荷山トンネルの交通量及び大気質の動向（山科測定施設）

山科測定施設	NO ₂ 単位：ppm	SPM 単位：mg/m ³	トンネル交通量 単位：台/日
H31年4月～R1年9月 日平均値	0.013	0.016	約1万9千台
H30年4月～9月 日平均値	0.012	0.016	約8千台
H30年 日平均値	0.012	0.013	
参考：予測解析値 (R1年日平均値)	0.015	0.014	約2万台

環境基準値
(98%値・2%除外値)

NO₂ 0.04～0.06ppm
ゾーン内又はそれ以下

SPM 0.1mg/m³以下

- ➡ トンネル交通量は増加（約2倍）しているものの、NO₂及びSPMは昨年度と同程度
- ➡ 交通量の増加による影響は小さいと考えられる。

4

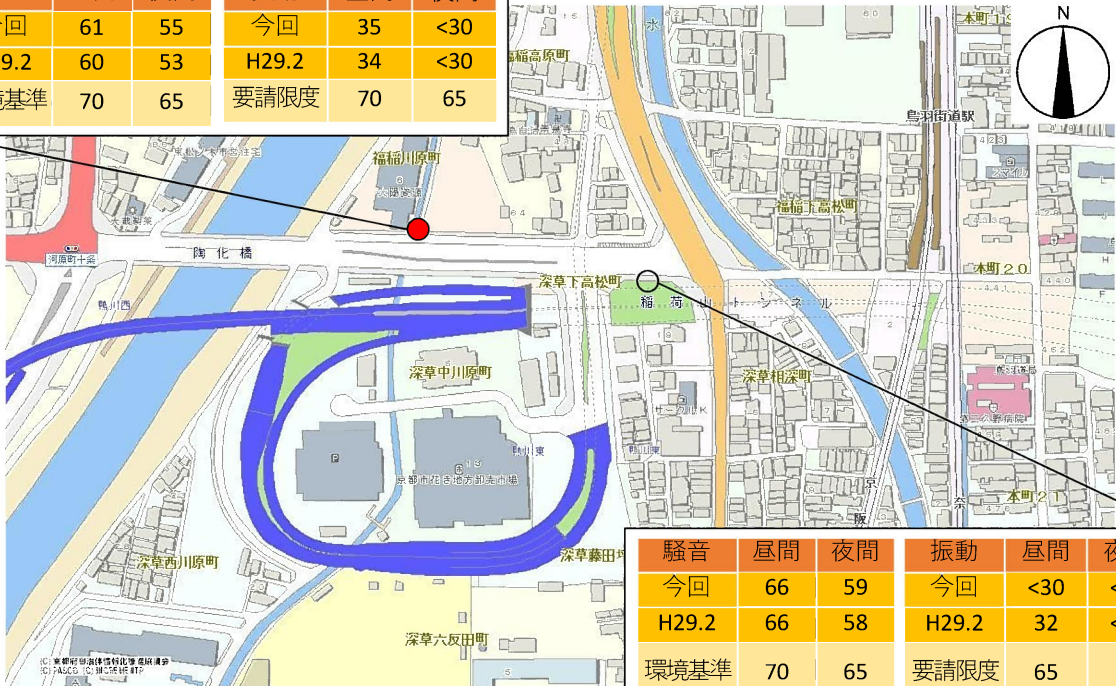
3 (1) 鴨川東 I C 周辺部における騒音・振動の調査

日時：令和元年10月29日(火)～30日(水)

結果：すべての箇所で基準を満足

騒音	昼間	夜間	振動	昼間	夜間
今回	61	55	今回	35	<30
H29.2	60	53	H29.2	34	<30
環境基準	70	65	要請限度	70	65

単位：dB(デシベル)



騒音	昼間	夜間	振動	昼間	夜間
今回	66	59	今回	<30	<30
H29.2	66	58	H29.2	32	<30
環境基準	70	65	要請限度	65	60

● 環境影響評価 (H6) 箇所
※表中 H29.2は、過年度に計測した数値

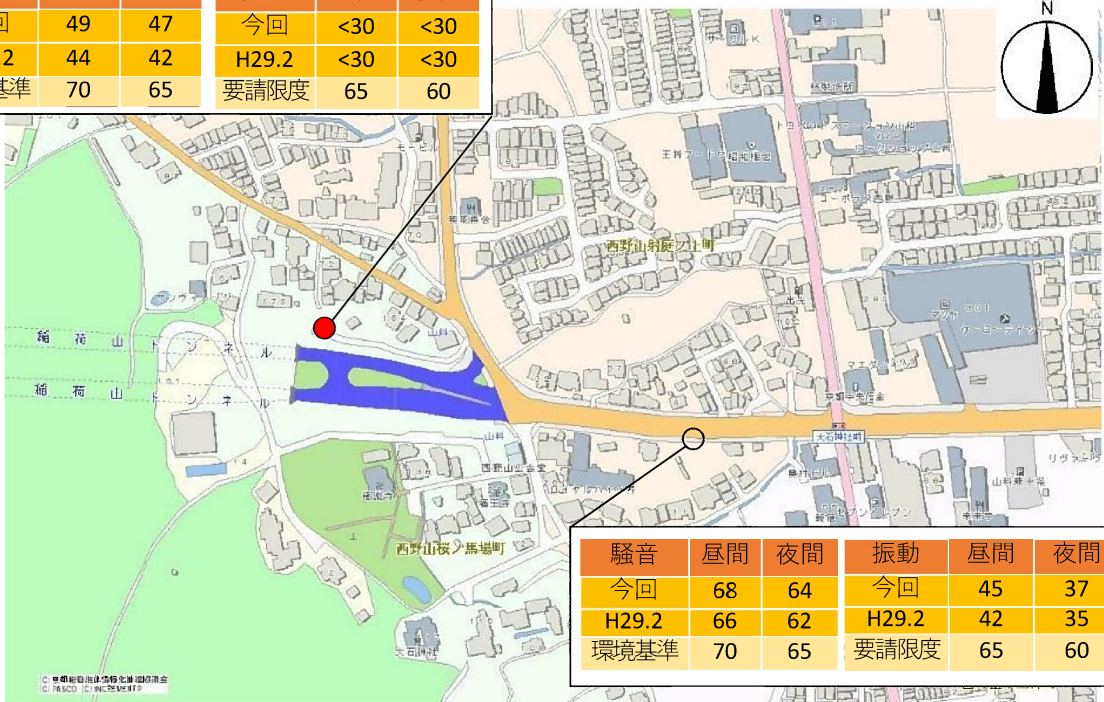
3 (2) 山科 I C 周辺部における騒音・振動の調査

日時：令和元年10月29日(火)～30日(水)

結果：すべての箇所で基準を満足

騒音	昼間	夜間	振動	昼間	夜間
今回	49	47	今回	<30	<30
H29.2	44	42	H29.2	<30	<30
環境基準	70	65	要請限度	65	60

単位：dB(デシベル)



騒音	昼間	夜間	振動	昼間	夜間
今回	68	64	今回	45	37
H29.2	66	62	H29.2	42	35
環境基準	70	65	要請限度	65	60

● 環境影響評価 (H6) の実施箇所
※表中 H29.2は、過年度に計測した数値

4 稲荷山トンネル（新十条通）移管後の状況等のまとめ

○トンネル交通量

無料化に伴って、トンネルの交通量は約19千台/日（約2倍）へ増加
→現状の交通量も同程度で推移

○大気質の動向

鴨川東及び山科の測定局におけるNO₂及びSPMの値（半年の平均）は、
昨年度と比較しても同程度で推移しており、環境基準を満足する見込み

（理由）

- ・自動車性能の向上(排出ガスのクリーン化)により、一台当たりの排出量が減少
- ・トンネル坑口周辺の大気質濃度は、広域的な大気質の状況（バックグラウンド）が多くを占め、道路交通の影響は小さい

○騒音・振動

鴨川東及び山科IC周辺における騒音・振動の測定値は、移管前と同様に
環境基準を満足する

<今後の進め方>

引き続き、トンネルの交通量と大気質の動向を注視するとともに、環境基準を
満足するか確認を行い、来年度の委員会で報告を予定